

早稲田大学 政治経済学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	全体的には難易度・分量ともに昨年と大きな差はないと思われる。ただし、設問の形式が少し変わっており、それが各受験生に有利に作用するか否かは意見が分かれるところであろう。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	長文内容真偽	よくある前文の内容に一致する文を選ぶ問題とは異なり、登場人物のコメントが本文の内容と一致するかどうかを問うという工夫された問題である。もちろん全文の要旨を把握することも重要だが、各部分の事実関係を正確に捉えていないと誤る可能性がある。	標準
II	長文空所補充 文整序・語整序	空所補充の中でも文法問題的要素はあまりなく、文脈・事実関係に即した語句を選ぶ問題である。また設問には文整序も含まれるが、これは例えばセンター試験のものと同様に代名詞や接続詞などを手がかりにすれば対処できるのではないだろうか。	標準
III	長文読解 内容一致	昨年のIIIほどの長さではなく、また設問も内容一致のみなので一見解きやすいようだが、文そのものの内容はなかなか高尚で、設問の中にはかなり微妙で受験生を大いに悩ませると思われるものも散見された。	やや難
IV	対話文空所補充 選択整序 条件英作文	対話の内容は平易だが、設問にはやや厄介な前置詞選択問題もあり、決して易しい問題ではない。むしろ英作文の方が、文脈さえ捉えれば、自由に簡潔な答案が書けるので、無理をして難しい内容にしなければ、楽に対処できるのではないだろうか。	標準

〔総合コメント〕

<p>全体的な分量・難易度については昨年と大きな違いはないが、本学部では以前から文法よりも読解力を問う問題が圧倒的に大きな割合を占めており、長文の量も多めなので、速読速解の力が肝要である。内容に関する設問にはかなり些末な事実関係を問うものもあるので、ただ要旨をつかむだけでなく、臨機応変に細部を確認する力も必要である。もちろん、文法力が必要な設問もあり、英作文も出題されるので、当然ではあるが総合的な英語力を養っておくこと。</p>
--